

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“相手もHAPPY、自分もHAPPY”の理念を職員で共有し、利用者 と接する時は笑顔を中心掛けている。	理念、行動指針については玄関正面に掲示し来訪者の目にもふれるようにしている。月1回の職員会議で共有し、理念、行動指針の持つ意味を正しく理解し日々の支援に繋げている。職員は各自で目標を立て、利用者一人ひとりの自立支援、「出来ることを出来る時にやっていただく」に力を入れ、日々の生活が楽しく過ごせるよう笑顔で接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、現在は交流はしていない。	法人として区費を納め、地域の一員として活動している。開設以来地域の人々との交流を積極的に展開してきたが、現在、新型コロナの影響を受け自粛状態が続いている。現在、日々の散歩の際に近隣の皆様と親しく挨拶を交わしふれあっている。また、職員が地区の図書館から利用者好みの本を借りて余暇の充実を図っている。新型コロナ収束後には地域の文化祭への参加や地域の保育園、小学生、中学生、高校生との交流活動を再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、現在は交流はしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍のため、運営推進会議は開催していないが、3か月毎に運営推進会議資料を郵送している。	例年であれば区長、民生委員、介護相談員、市東部保健福祉センター職員、諏訪広域連合職員、ホーム関係者の出席で3ヶ月に1回開催しているが、現在は新型コロナの影響を受け、状況報告、行事報告等、会議資料を意見返信用封筒と一緒に委員宛に郵送し、意見・要望を記入いただき支援の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月毎に運営推進会議資料を郵送し、改善のための助言を頂いている。	管理者が市の福祉21のメンバーとして茅野市民活動センターで行われる「認知症カフェ」に参加している。合わせてグループホーム連絡協議会にも参加し介護保険の説明会や他施設との交流も行っている。通常であれば介護相談員の来訪が月1回あり利用者も楽しみにしているが、現在は新型コロナの影響を受け中断しており、収束後には再開する予定である。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応し行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しているが、外に出たい利用者と一緒に外に出て、散歩をしたり、花の水やり等身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。外出傾向の強い利用者があるが希望に応じ職員が付き添い散歩をしている。転倒、転落のリスクを避けるべく家族と相談の上、足元センサー使用の方が半数近くいるが、定期的に検討し、できるだけ使用しないようにしている。3ヶ月に1回、身体拘束・虐待防止の研修会を行い意識を高め取り組んでいる。	

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を含め定期的に研修を行っている その都度職員で再確認をし、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合には、随時職員に説明し、アドバイスをを行いながら、利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にパンフレットを渡し、入居金や月々に掛かる金額等を説明している。 今は建物内に入る事が出来ないが、写真などを見て頂き、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今は、電話・ライン・メール等でご家族の様子をお伝えしている。 利用者とはオンライン面会等、気楽にお話し出来るよう心掛けている。	殆どの利用者は意思表示の出来る状況であるが、話をする中でジェスチャーや筆談も交え利用者の思いを受け止め支援に繋げている。家族の面会は今年5月以降新型コロナウイルスの警戒レベルが2に下がりが玄関で行っていたが、7月28日に警戒レベルが3に上がったため、また面会自粛状態となり残念な状況となっている。利用者の日々の状況は「LINE」「メール」などを画像で送り家族に知らせている。また、利用者が手書きの「暑中見舞いハガキ」を作成し家族あてに郵送し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を毎月開催し、相談事や、カンファレンス等を行っている。 職員同士意見が言いやすいように、心掛けている。	月1回職員会議を行い、経営会議の内容説明や事前に連絡ノートに話したい事を募集した内容について検討しケアの向上に繋げている。処遇改善や就業規則の変更等について、年2回、管理者による個人面談が行われ、様々な意見交換の場としている。「マネージャー研修」「看取り研修」「虐待防止・身体拘束研修」等を受けホーム内に持ち帰り、知識・技術の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表もほぼ毎日訪れ、利用者と話したり、職員の業務や悩み等、把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため、社内研修の機会を確保している。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茅野市の「福祉21ちの 関係づくり部会」に参加し、医師・看護師・介護士・地域の人々などと交流し、意見交換することによりサービスの向上を目指している 複数事業者対象の、コロナウイルスワクチンに関する勉強会に参加した。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族・計画作成担当者と共に面接し、ご本人とご家族のお話を聴くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの苦労や、心配事、生活の様子など、ゆっくり聴くようにしている。 また、要望等も聴きながら良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案を必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事やまゆ玉作りなど経験豊富な利用者の知恵や技術を教えてもらい、出来る事で協力し合い感謝し合う関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時やメールを通して都度ホームでの様子を共有している。 共に支えていく為に一緒に考え問題解決していきける関係であると感じている。 運営推進会議の資料と議事録をご家族へ郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会可能な時期は、居室でお茶を飲みながら家族や知人との会話を楽しまれたり、外出・外食もされている。 年末年始の外泊で家族と過ごす方もいる。	近所の方や親戚の来訪、家族との買い物、理美容院への外出等、現在は新型コロナの影響を受け自粛状態が続いているが、収束後には再開予定である。そのような中、毎年行っている家族あての手書きの「年賀状」「暑中見舞い」は継続して行い、家族からも好評を頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を共有し、心身の状態や気分・感情など、日々違うことがあるので、注意深く見守るようにしている。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境・支援の内容・注意など必要な点について情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々関わりの中で意図的に声をかけ、把握につとめている。 言葉や表情からその真意を感じとったり、それとなく確認するようにしている。	日々の関わりの中で利用者一人ひとりと話し、見守りながら「やりたいこと、出来ること」への思いを受け止め、意向に沿えるようにしている。洋服選び、「計算ドリル」「ぬり絵」等、二者択一も含めた具体的な提案を行い、自分で決め行動出来るようにしている。日々の気づいた言動等は生活記録に纏め、職員はそれを出動時に確認し、利用者の思いを具体的に実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握が重要と考え、プライベートに配慮しながらもその人がどんなライフスタイルだったのかを理解しようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解したうえで”出来る事”や自立支援に注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や「家族には日頃の関わりの中で、思いや意見等を聴き反映させるようにしている。 担当がカンファレンスを行い職員全員でケアの方向性を共有し介護の展開を行っている。	職員は1~2名の利用者を担当している。日々の関わりの中で利用者一人ひとりから話を聞くことを大切しモニタリングを行い、月1回のカンファレンスの席上、全職員が意見を出し合い、管理者がまとめてプラン作成を行っている。入居時は1ヶ月間の暫定プランを作成して様子を見て、その後は基本的に6ヶ月に1回のプラン見直しを行い、状況に変化が見られた時には随時見直し利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉やエピソードなど、職員の気づきと共にカードックスに記録している。 職員間の情報共有に連絡ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて往診ドクターや、訪問看護ステーションの看護師と連携し対応している。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は市の相談員さんが訪問して下さり利用者との会話の中で気付いた事を職員に届けてくださっていたが、今は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や往診ドクターとなっている。 基本的に、ご家族対応をお願いしている。 職員より往診結果をお伝えしている。	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在、全利用者が入居前からのかかりつけ医の月1～2回の往診で対応している。合わせてホームが契約している訪問看護ステーションの看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携を取っている。また、月1回はリハビリの先生の訪問もあり、利用者一人ひとりに合わせた体操指導、提案を頂き、日々の活動の中に活かされている。歯科については必要に応じ往診を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による利用者の生活のしにくさを極力防ぐために、医師や医療相談室と話をする機会を持ち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るようにお話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針の中で、看取りに対する考え方を説明し、主治医・訪問看護ステーションの看護師と連携していく事を実践している。	重度化、終末期に向けた指針があり、利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。終末期に到った際には家族、医師、ホームで話し合いの場を設け、医師より終末期に対する話をしていただき看取り支援に取り組んでいる。また、状況の変化に合わせてその都度説明を行いサインを頂くようにしている。開設以来10名の看取りを行い、居室に泊まり込み最期の時を過ごされた家族もお礼感謝されている。年2回法人内で看取り勉強会を行い、心構え等の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて緊急時対応マニュアルを備えており対応できる準備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・避難経路の確認を隣の施設と共同で行っている。 発電機の使い方など確認している。	年2回、併設のケアホームと合同で火災想定防災訓練と防災機器の点検を行っている。合わせて新入職員の入社時には通報訓練を行い、連絡経路の確認を行っている。また、今年度は6月に市に提出した「土砂災害」想定避難計画に合わせ訓練を実施する予定である。備蓄については「水」「レトルト食品」が3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを考えて気遣い・言葉遣い・心遣いを大切にしよう心掛けている。	言葉遣いには特に気配りし、親しき中にも礼節を重んじ不快な気持ちにならないよう心掛け、利用者の前では他の利用者の状況等、個人情報に関わる事柄については話をしないよう徹底している。呼び方は名前に「さん」付けでお呼びしている。同じ名前の方がいる場合は苗字でお呼びしている。また、入室の際にはノックと声掛けを忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	”散歩”や野菜作り”の希望される利用者の願いに沿って実践している。 言いやすい環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の離床や入床の時間はそれぞれなので、利用者に合わせて声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴の整髪等は出来る範囲でご自分で意識して行って頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けをお願いしたり、出来る利用者には自分の食器を洗って頂いたり、食器拭き等、お願いしている。	自立の方が多く、一部介助の方が若干名という状況で、食形態は一部キザミ、トロミの方がいる。献立と調理はケアホームの栄養士が行い、盛り付け、キザミ、トロミ等の処理はホームで利用者と共に職員が行っている。季節に応じ、お彼岸には「おはぎ」などを利用者と共に作ったり、手づくりおやつとして「ホットケーキ」「フルーチェ」等も共に作り楽しんでいる。合わせて誕生日には好きなものを提供し、クリスマス、正月等には季節の料理をお出ししている。ちなみに訪問調査当日は土用の丑の日でもあったため、昼食に「うな丼」が出され利用者も楽しんでた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者により摂取量など違いはあるが、水分は促して摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る利用者には口腔ケアの促しをしている。 また、歯磨きの仕上げを職員で介助している利用者もいる。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある人もない人も、食事前や就寝前、その他お茶やおやつの前にもトイレの声掛けを行ったり、誘導をし、自立に向けた支援をしている。	自立の方は若干名で、他の方は一部介助という状況である。起床時、おやつ前後、食事前、就寝前等、定時に声掛けを行いトイレに誘導するよう心掛けている。各居室にトイレが設置されているため尿意を感じたり、排泄が済んだらボタンを押して知らせていただき適切な支援に繋がるようにしている。合わせて排泄チェック表を用い、申し送りで日々の状況を共有しスムーズな排泄に繋げている。また、排便促進の為「ヨーグルト」「豆乳」「牛乳」「オリゴ糖」等の摂取も進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便関係はチェック表を用いて記録する。記録をもとに個々に応じた取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者のその日の体調をもとに時間の変更や曜日の変更をさせて頂いている。	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが、誘い方に工夫をして入浴していただくよう努めている。季節により「ゆず湯」等で季節感も味わっていただけるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後・昼食後は休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がきちんと出来ているか見守りしている。くすりでの変化がある場合は、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者により好きな事や、出来る事は違うが、歌や体操などは楽しまれているので、日々取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春は桜、秋は紅葉と、ドライブを楽しまれている。コロナ禍という事もあり、面会や家族との外出は出来ていないが、職員と一緒に外出支援を行っている。	外出時、自力歩行の方は若干名で、他の方は歩行器使用か車いす使用という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩するよう心掛けている。新型コロナの影響を受け外出が難しい状況が続いているが、今春はドライブを兼ね原村まで「桜」の花見に出掛け利用者も楽しいひと時を過ごしたという。新型コロナ禍という状況であるが、感染レベルを見ながらドライブを兼ね季節の花の見学に出掛ける予定である。	

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が安心した生活につながる利用者は、自分の財布を所持されるが、お金を使う機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者や家族の希望で対応している。携帯電話を所持している利用者は自由に使用されている。 年賀状等、季節ごとのお便りを作成しご家族に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室~共有空間は1本の廊下でつながり、シンプルな造りになっている。 共有スペースには絵画や季節ごとの装飾をして四季を感じられるよう工夫している。	玄関前には数個のプランターが置かれ夏野菜が栽培されており利用者の楽しみの一つとなっている。清掃が行き届いたホーム内は清潔感が漂い心地よい雰囲気を感じられる。廊下の数ヶ所にソファが置かれ利用者の寛ぎの場となっている。また、ホールの正面には暖炉式のストーブが設置され冬場にはなお一層の温かさを作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下に複数で座れるソファを設置して一人で座って読書したり、利用者同士で肩を並べておしゃべりする等、多目的に活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族に使い慣れた物や、好みの物を持って来て頂くよう協力して頂いている。 居心地の良い環境にしていきたい。	各居室には広々としたトイレと洗面台が設けられ、プライバシーにも配慮された暮らし易い造りとなっている。入り口ドアは9色のカラーに色分けされ、利用者が自分の居室を間違えることがないように工夫されている。持ち込みは自由で、自宅で使っていたテーブル、タンス、テレビ、冷蔵庫等がレイアウトされ自由な生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内には、安心して掴む事の出来る手摺を取り付けている。 居室の扉は各部屋色が違いわかりやすいよう工夫されている。		